

外国にルーツを持つ A さんが語る、 日本社会の壁と未来

研究員 オーリ リチャ



この記事は、団体 *New Face of Japan* が行ったインタビューに基づいています。*New Face of Japan* (インスタグラム: @new_face_of_japan) は、日本社会における多様性とインクルージョンの促進を目的に、さまざまな背景を持つ人々の声を発信しています。

今回は、外国にルーツを持ちながら日本で育った A さんの経験を通じ、日本社会の課題と解決の方向性を探りました。A さんの語りからは、日本が「グローバル化」を掲げながらも、実際には外国人を十分に受け入れていない現実が浮かび上がります。A さんは、大学入学時の奨学金申請が難航したり、授業で国籍を問われたりと制度的・社会的な壁に直面しました。さらに、日常生活でも差別的な扱いを受け、日本社会が形式に頼り、人と人との直接的なコミュニケーションが乏しいと感じています。

こうした経験から見える課題は大きく三つに整理できます。

- 制度的な壁：ビザや奨学金など、教育や就労の際に直面するハードル
- 社会的受け入れ不足：外国人が差別や排除にさらされること
- コミュニケーション欠如：マニュアル的で、交流が乏しいこと

これらを解決するには、多様性を認め、異なる背景を持つ人々が共に生きられる社会づくりが不可欠です。Aさんは、日本人と外国人という区別を超え「共生社会」を目指すべきだと訴えます。特に、多くの外国人がビザの問題で日本を離れざるを得ない現状を改善する必要があると指摘しています。

社会が多様性を受け入れれば、幸福度が高まり、新しい発想や価値観も生まれます。これは国内だけにとどまらず、国際的な理解や協力を促進し、平和で持続可能な世界の実現にもつながるでしょう。